

日本安全保障貿易学会・第36回研究大会  
「中国の安全保障をめぐる問題」

# 中国が推進する認知戦の姿

飯田将史（防衛研究所）

# 認知領域をめぐる従来の議論

## ■ 三大作戦領域

### ① 物理領域

伝統的な作戦領域。武器・装備、施設など戦争を物理的に支える

### ② 情報領域

情報化戦争により独立した領域に。情報が行き交うバーチャルな空間

### ③ 認知領域

**新興**の作戦領域。感知、理解、信念、価値観など**意識が構成するバーチャルな空間**

## ■ 認知領域における戦いは以前から存在

■ 太鼓や足踏みなどによる戦意高揚と敵に対する精神的威圧

■ 情報発信による自己の正義性、敵の非正義性を喧伝

■ 「三戦」（**輿論戦**・法律戦・**心理戦**）

■ メディアを利用し、目標対象の心理と行動に影響を与える（心理攻防）

# 情報化戦争における認知領域での戦い

- ▶ 情報化戦争は物理領域、情報領域、認知領域で同時に進行
- ▶ 認知領域は情報化戦争の要地（認知優勢が物理・情報優勢獲得の条件）
- ▶ 認知優勢の4要素
  - ① 感知優勢  
高性能センサーなどによる状況認識（偵察・監視）能力の優勢
  - ② 知識優勢  
人材育成によるハイテク兵器の運用など高度な知識による優勢
  - ③ 心理優勢  
政治教育や訓練による戦闘員の心理状況における優勢
  - ④ 決定優勢  
迅速な情報処理などによる決定における優勢

# 智能化戦争における認知領域での戦い

4

- ▶ 新たな科学技術（AIや脳科学）の発展により、認知領域作戦の効果に飛躍的な向上への期待
- ▶ 最小コストで最大効果（戦わずして勝つ）の実現をもくろむ
- ▶ 認知領域における3つの作戦
  - ① 認知抑制
    - 自らの行動を隠蔽することによって敵の感知能力を弱体化・無力化
    - 大量の無人機による敵の偵察能力の無力化
  - ② 認知形成
    - 偽情報のインプットによって敵を思い通りに行動させたり、敵の決心を破壊
    - BMI技術による敵の認知空間への侵入
  - ③ 認知コントロール
    - 敵の思考や指揮・決定を直接コントロールすることによって勝利を得る
    - VR技術や電磁波、神経剤などを利用した敵の脳コントロール。
- ▶ すでに認知領域における戦いは進行中
  - ディープ・フェイクを用いたSNSを通じた輿論戦・心理戦

# 認知領域における作戦の基本任務

5

## ■ 認知領域作戦とは

意識・思考面における対抗であり、情報を選択的に加工・伝播することで、判断に影響を及ぼし、観念を変えさせ、人心を争奪し、それにより**現実の態勢を我に有利な方向へ発展させる**こと。**平時と戦時の境はない**（平戦一体）。

## ■ イデオロギー面での任務

- 政治的な共通認識を強化/破壊、政治的な信念を固める/動揺、政治的な陣営を発展/瓦解
- 予見される戦争に対する支持/反対の世論を形成する

## ■ 社会心理面での任務

- 民族間・地域間の協力/対立を促進する。
- 影響力ある個人の心理を左右することで、民意の変化と社会の動揺を誘引する。

## ■ 戦争における任務

- 攻撃や情報欺瞞などにより、敵の抵抗意思を弱め、誤った決定を引き起こす。
- 大規模軍事演習や選択的な目標の攻撃などにより、社会の混乱を生み出す。
- 戦争の正義性を強調し、敵の残虐行為を暴露することで我の敵愾心を高める。
- 我の主張を拡散し、国際世論を動かすことで、国際的な支持を獲得する

# 台湾における認知戦の捉え方

6



(出所)『中華民國110年国防報告書』44頁。

## 中国による「グレーゾーン脅威」

- ① 台湾に対する侵入・騒擾（軍事的圧力）
- ② ネットワーク戦（情報収集、インフラ攻撃等）
- ③ 認知戦

## 中国による認知戦の目的

- ① 政治面（国際的孤立を高めて政治的要求を飲ませる）
- ② 経済面（経済力で企業や市民を取り込む）
- ③ 軍事面（軍事力を誇示して威嚇効果を拡大）
- ④ 心理面（人心混乱により抵抗意思を弱体化）

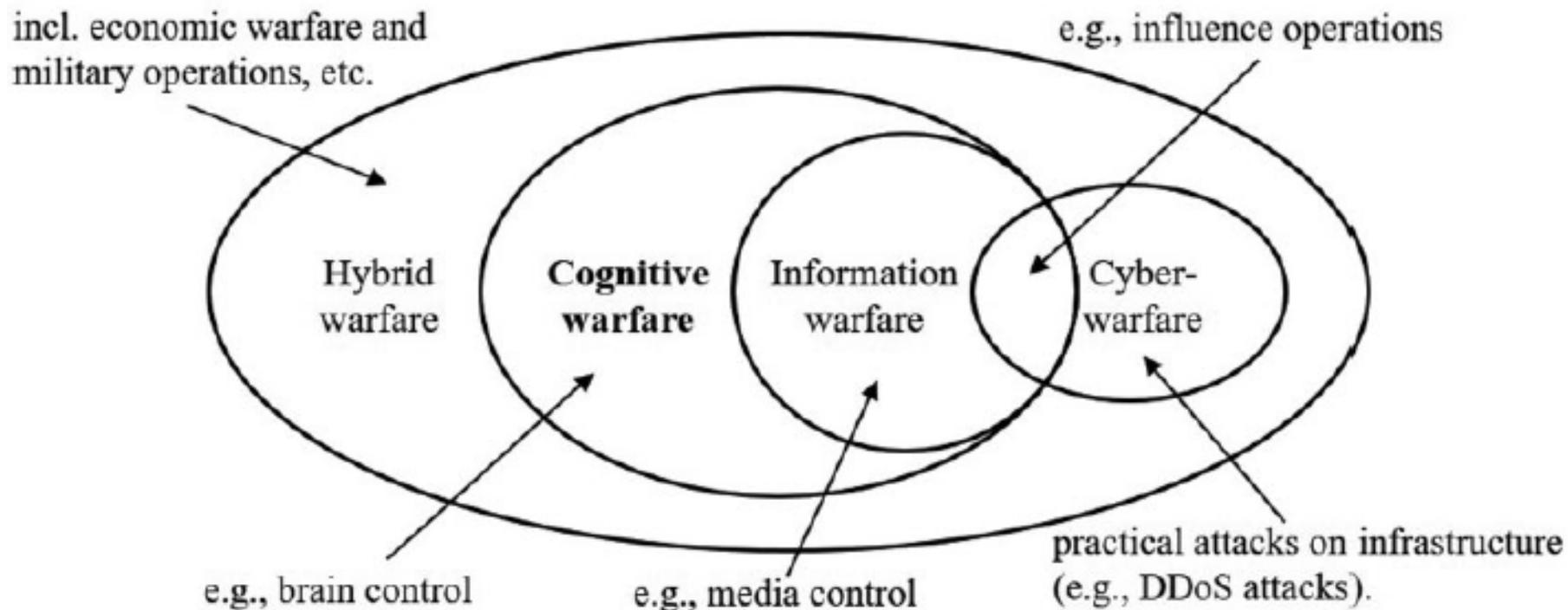
## 中国による認知戦の手段

■ ソーシャルネットワークを基盤として、大量かつ巧妙に作成された偽情報をまき散らす。

- ① 外宣モデル（中国の官製メディアによる情報発信）
- ② 粉紅モデル（ネット民兵などによる大規模発信）
- ③ 農場モデル（コンテンツ・ファームを通じた発信）
- ④ 協力モデル（統一戦線を通じた内部協力者による発信）

# 認知戦と他の戦闘（戦争）との関係

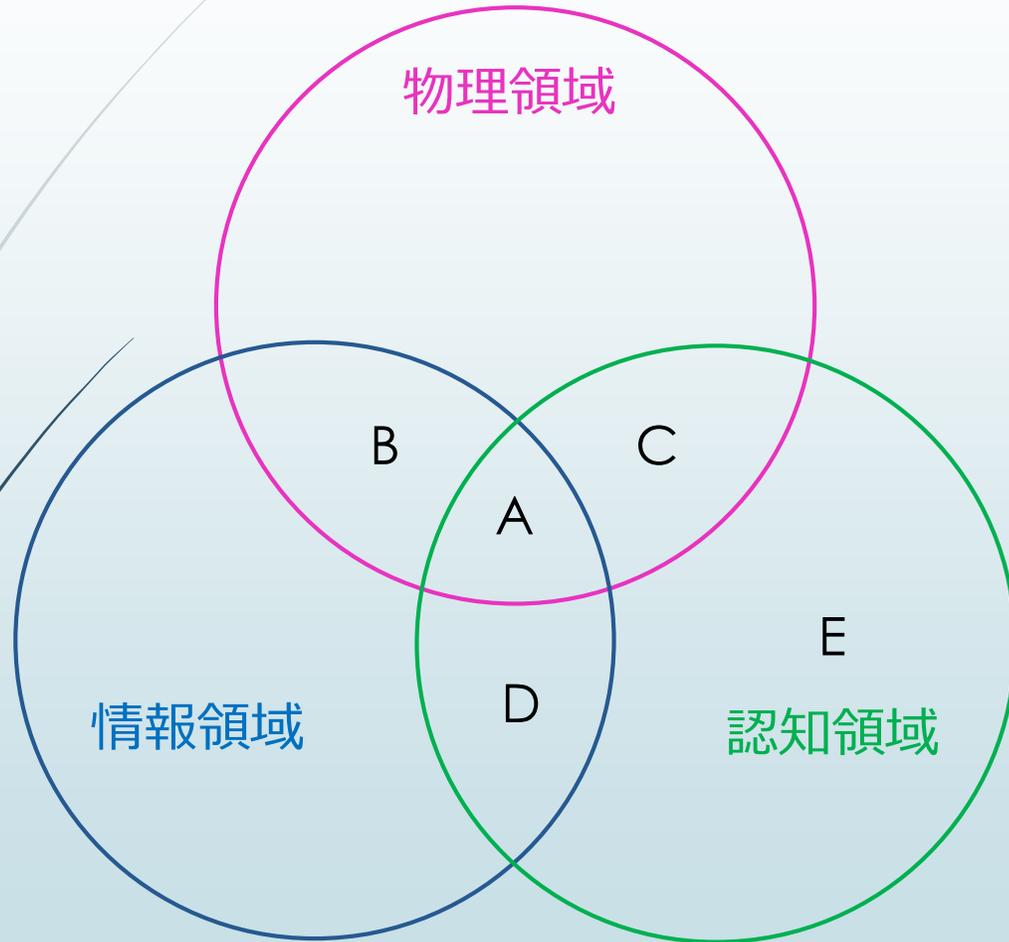
7



- ▶ 全ての形式の戦争が影響工作の要素と認知への影響を含みうる。
- ▶ 他方で認知戦のみが武器化された神経科学による脳コントロールを志向する。
- ▶ Tzu-Chieh Hung and Tzu-Wei Hung, "How China's Cognitive Warfare Works: A Frontline Perspective of Taiwan's Anti-Disinformation Wars," *Journal of Global Security Studies*, 7(4), 2020, 1–18.

# 物理・情報・認知領域の関係性

8



- ▶ **A (物理・情報・認知) 【智能化戦争】**
  - ① サイバー攻撃でインフラを破壊し人心の動揺を図る
  - ② AI、宇宙アセット、無人機の組み合わせによる戦場認知能力の強化
- ▶ **B (物理・情報) 【情報化戦争】**
  - ① 精密誘導兵器によるピンポイント攻撃
  - ② 無人機によるスウォーム攻撃
- ▶ **C (物理・認知)**
  - ① 大規模軍事演習による心理的圧力
  - ② C4ISRアセットの破壊による敵の認知能力の低減
- ▶ **D (情報・認知)**
  - ① AIの活用による人機共同決定
  - ② サイバー攻撃による敵の認知能力の低減・支配
  - ③ ソーシャルメディアを通じたディスインフォメーションによる社会の動揺、指導者の信用失墜
- ▶ **E (認知)**
  - ① 伝統的メディアを通じた影響工作
  - ② 利益提供による敵国の人心掌握